



30周年の節目を飾った運動会

「本気100%～勝利と絆を勝ち取ろう～」のスローガンのもと、すべての力を出し切った、まさに30周年という節目を飾るにふさわしい運動会でした。必死に走り、必死に戦い、全員が声の限りに応援している姿が印象的でした。正々堂々とした戦いぶりに、清々しささえ感じました。夏休み明けからそれぞれの係に分かれ、目立つ目立たないに関係なくこの運動会へ向けて自分の役割を果たそうとしてきたことが、一人一人の成長につながっているんだと感じた運動会でした。

朝早くから、競技運営にご尽力下さいましたPTAの皆様、温かいご声援を送って下さいましたご来賓の皆様、地域の皆様、保護者の皆様に感謝申し上げます。

学校・地域・保護者と一体になったいじめ防止への取り組み

国語教育、家庭教育、道徳教育分野で全国でご活躍の植草学園大学名誉教授、千葉県教育委員の野口芳宏先生をお迎えし、「いじめ防止講演会」を平成26年9月17日(水)午後7時より、天童市スポーツセンター小アリーナを会場に開催いたしました。

これは、いじめ問題等の理解を深めるとともに、学校と保護者・地域が連携協力し、いじめを生まない社会の形成や、いじめから子どもを守る機運を醸成することを開催趣旨として行われた講演会です。三中学区の教職員だけでなく、保護者・地域の皆様からもお集まりいただき感謝申し上げます。野口先生のお話から学ばせていただいたことを下記にまとめてみました。保護者・地域の皆様と一緒に、いじめに走らない、いじめを見逃さない児童の育成に取り組んで参りたいと思っています。

- ◆いじめをなくす努力は続けていかななくてはならないが、なかなかなくなるという現実の中で生きていくという覚悟、勇気、強さを身につけていくことが大切
- ◆いじめには三つの特徴がある
 - 一つは、強い者が弱い者に対して一方的に行うということ
 - 二つ目は、見つからずにやるということ
 - 三つ目は、困っている人を見て喜ぶサディスティックな心があるということ
- ◆学校教育の「知」、「情」、「意」、「体」の四領域の中の「意志」の教育を高めていく必要がある。生きる道というのは、ある意味「意志」の問題、無法な行為・無法な者に立ち向かう勇気が大切
- ◆いじめに対応する力
 - 一つは「忍耐」(敗北)、しかしこれには限界がある。
 - 二つ目は「抵抗」、これには「勇気」が必要
勇気には自分の思い通りにしたい野蛮な「蛮勇」=価値のないいじめはこれにあたる。
正義を通すための「義勇」=無法なこと、いじめに立ち向かっていくこと
 - 三つ目は「援助を乞う」こと(悩みを伝える勇気を持つこと)
- ◆いじめへの対処療法だけでなく、いじめに走らない子どもを育てていくための根本(幹の部分)の部分、中心となるのが「孝」。学校で徹底して教えていく必要がある。
「孝」:この世の中で一番愛してくださっているお父さん、お母さんを悲しませてはならない、親を大切にしなさい、親の言うことは「はい」と聞きなさいという教え
集団万引きのグループ内でただ一人万引きをしなかった子→親の悲しむ顔が浮かんだから孝行を身につけた子はいじめに向かわない。
- ◆学校と家庭が同じベクトルで動いていくことが大切
- ◆教育の中心は学校、家庭は養育する場所、「ほっとする」場所

小中連携事業について

昨年度の三中学区校長連絡会議において、子ども達の9年間の育ちのために小中のさらなる連携を図っていこうという気運が高まってまいりました。今年度に入り、小中連携委員会を立ち上げ、「まなび」、「くらし」、「からだところ」の三部会で話し合い、学習習慣づくり、あいさつ運動、ゲームやスマホの使い方についての具体的な共通実践事項を定め、現在実践に取り組んでいるところです。しかし、この事業は、小中連携はもちろんですが、学校・家庭・地域が一緒になって取り組んで初めて効果を発揮するものだと考えているところです。子ども達のさらなる成長のため、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

平成26年度

小中が連携して取り組む共同実践

三中学区連携委員会

★印は長岡小の実践

1 家庭学習の充実をノート指導で取り組みます。(まなび)

学校でのまなびを充実させるためには、なんと言っても授業が大切です。それを支えるのは学習習慣といえるでしょう。学習習慣を小中一貫して形成することは、学びを充実させ、学校生活の意欲を高め、やがては学力向上にもつながるでしょう。ノート指導に力を入れ、それぞれの学年にあった家庭学習を充実させる実践を進めます。

(1) 具体的実践 1

小中一貫して、板書とノートとのリンクを図り、課題とまとめを明確にすることに努める。

★課題 思考 まとめ(ふりかえり)をノートの基本とし、積み重ねていく。

★問題(課題)を青四角で囲み、まとめを赤四角で囲む。

(2) 具体的実践 2

中学校でのノートの使い方や手本となるノートの実例を小学生に紹介し、教科に応じた、また目指すノートの取り方の定着を図る。

★各教室にノートの展示コーナーを設け互いに学び合う。

★毎月の中旬頃一週間、展示ホールでノート展示会を開催する。

2 あいさつの大切さを見つめ、習慣化を図ります。(くらし)

あいさつは社会の中で生きる基本である大切な習慣です。大切さはわかっている、大人自身がしない、少子化・核家族化がすすみあいさつの機会が少ない、携帯端末等の普及により肉声を通じた交流が少ないなど、あいさつを習慣化する上で難しい状況があります。今こそあいさつの重要性を見つめ直し、小中一貫して声がけし、三中学区にあいさつの輪を広げます。

(1) 具体的実践 1

小中一貫し様々な場で挨拶を大切にするとともに、様々な組織で挨拶運動に取り組む。

★生徒指導部と児童会が連携した計画を立て実践する。

(2) 具体的実践 2

「三中学区あいさつ運動旬間10月20日(月)～11月2日(日)」を設定し、地域を巻き込んだあいさつ運動を展開する。

3 ゲームやスマホの使い方に関する約束を定めます。(からだところ)

高度情報化が進む中、児童生徒における携帯端末等通信機器等の普及を止めることはできません。しかし、ゲーム依存から体調を崩し、勉強に身が入らない、あるいは無料通話アプリ(LINEなど)により、いじめにつながるトラブルが起きるなど数多くの問題が起こっています。これら機器の使用について大人が積極的に関わる必要があります。小中がともにこれら通信機器を使う約束やマナーについて学年に応じた取り組みを推進します。

(1) 具体的実践 1

保護者の協力も得ながら、小中連携してスマホ・ゲームの使用制限やルールを設ける。小学校は8時以降、中学校は9時以降使わない。

(2) 具体的実践 2

三中の学期末テスト前のアウトメディア期間に合わせて、小学校全校も一緒に取り組む。

お知らせ

これまで病氣療養のため休んでおりました1年3組担任の高橋圭子教諭が順調に回復し、10月3日より復帰することとなりました。病代としてこれまで担任を受け持っていただきました秋場先生とは、10月2日にお別れの会を行う予定です。25年度から1年以上にわたり、たくさんのお子様にご指導くださいました。ありがとうございました。